会　議　要　旨

会議の名称	川越市農政モニター平成３０年度第３回会議
開催日時	平成３１年２月１日（金） 午後２時００分　開会　・　午後４時００分　閉会
開催場所	農業ふれあいセンター　研修室兼視聴覚室
座長	村川　はつ枝
出席者	川越市農政モニター（８名） 農業者　加藤健一、大河内基行、塩野富雄、沼田敏明 商業者　村川はつ枝 消費者　太田直敬、及川一廣、正木一弘 事務局 相川副部長、小野寺副課長、小川副主幹、関口主事補
会議次第	１　開会 ２　あいさつ ３　議題 ⑴　農地保全の取り組みについて ⑵　川越の伝統野菜を保存・伝承していくには ４　その他 ５　閉会
配布資料	１　会議次第 ２　資料１　農地保全事業について ３　資料２　川越の伝統野菜について

議　事　の　経　過
1　開会 2　あいさつ（相川副部長） 3　議題 ⑴　農地保全の取り組みについて 事務局より川越市での農地保全事業について説明し、委員より質問・意見をいただいた。 【主な意見】 ・川越市は都市近郊にあるので「農のある生活」のようなことは必ず必要になると思う。 ・農地を保存したいのであれば、市民農園の形式で農地を分割して一つの品目を栽培して出荷する方法はよい。そのためには農地所有者、耕作者、農協、農政課が一体となってプロジェクトとして農地を守る必要がある。 ・川越市で農業を営んでいるが、住宅と接している場合が多いので、一般住民から農業について理解を得ることに苦労している。 ・市民農園は損得ではなく、食べることや栽培することを楽しみ、差し上げた人から「おいしかったよ」と言われることに喜びを感じることができる。これも一つの農業だと思う。 ・農地集積をするならば、行政主導で担い手の方針を決め、営業に行って人を呼び込んでいかなくては農地は保全できないし、どんどん荒れていってしまうと思う。 ・市民農園は、プロの方の話を聴ける、セミナー開催やWeb等を使って情報を探せる等の支援を併せて行うと興味を持つ人が増えると思う。 ⑵　川越の伝統野菜を保存・伝承していくには 事務局より伝統野菜の概要、他市事例、川越市でのこれまでの取組等を説明し、委員より質問・意見をいただいた。 【主な意見】 ・伝統野菜には懐かしさはあるが、常に食べるならおいしく品種改良されたF1品種の方だ。品種改良は時の消費者の好みに合うように行われている。伝統野菜は自分でタネを採種できるなどの利点はあって一部の人にはよいが、大衆向きではないと思う。 ・伝統野菜は料理して口に届けるまでを一つの流れにしないと浸透しない。小さな子供を交えて播種から収穫まで行い、料理人などにある程度の料理を作ってもらって、現在の野菜との食べ比べなどを行いながら、このよう

な伝統野菜がある、というPRが必要。伝統野菜は今の調理方法ではおいしくないと思うので、その野菜に合った料理で提供すべき。

・食育をからめて、子供たちに川越の昔ながらの野菜を勉強してもらうという程度から始めて、将来的に少し市場に定着していくとよい。

・資料２における「三芳野名勝図会」に記載されていた川越の名産物を当時のものに近い現在ある野菜等を作って再現してみて、何かのイベントにおいてみんなで食べてみるとよい。

・伝統野菜を保存・伝承していくのならば、ちゃんとユーザーを見つけてやらなければうまくいかない。

・伝統野菜を普及させるには、笠幡水田のうまい米を作らん会のような会を各公民館の地域ごとに作るとよい。

・伝統野菜にこだわる必要はないと思う。オリジナリティのあるものを作る方に考え方をシフトした方がよい。

４　その他

（事務局より）

次回の農政モニター会議は５月頃を予定している。現在次期農業振興計画を策定しているので、次回会議では農業振興計画についてご説明したい。

５　閉会